

平野ヶ丘

『 自己有用感を育み、挑戦意欲を高める 』

校長 高橋 光弘

6月2日には季節外れとも言える台風2号の影響により、登校後に気象警報が発表され『引き取り』をさせていただきました。数年ぶりの引き取りということでご負担をおかけしましたが、落ち着いて対応していただきました。ありがとうございます。その後は、じめじめした日が続いたかと思えば、真夏を思わせるような暑い日もあり、体調管理が大変な6月でした。しかし、子どもたちは、元気に活動しました。プールからも元気な歓声が聞こえてきます。

さて、右下の写真は、6月7日に行われた『なかよし養正あそび』の一場面です。これは本校の伝統的な活動です。学校では、1年生から6年生までの異年齢のたてわりグループの活動を大切にして社会性を育てています。この日は、全30のグループに分かれて運動場で活動しました。多くのグループが、花いちもんめ、かごめかごめ、ぐるぐるじゃんけん、おにごっこなどのあそびを楽しみました。これらのあそびの内容は、リーダーの6年生が考えました。自分たちだけでなく、特に低学年の子たちが楽しめるようにと考えて計画してくれたのだと思います。また、活動の途中で、転んですり傷をした低学年の子に気付いて、そばに寄り添い目線を合わせて声をかける6年生の姿をいくつか目にしました。手を繋いで、保健室に向かう光景が今も心に残っています。低学年の子は、自分のことを大切にしてもらえてうれしかったことでしょう。6年生は、低学年の子の役に立てたことをうれしく思っていることでしょう。

活動を終えた6年生は、『グループのみんなが楽しんでくれてうれしかった。』と感じたようです。

このような「自分を大切に思ってくれる人がいる。」「自分は人の役に立っている。」「自分を頼りにしてくれる人がいる。」「自分を認めてくれる人がいる。」などの感覚が自己有用感であるとされています。

つまり、自己有用感とは人との関わりの中で育まれる『自信』とも言えるのです。子どもたちは、学校だけでなく、家庭や地域においても人との関わりの中で成長しています。「あなたのおかげだよ。ありがとう。」「頼りにしているよ。」などの声かけが、自己有用感を育てています。そうすることによって、「よし、頑張ってみよう！」という挑戦意欲を高めていきたいと考えています。

育友会読み聞かせに寄せて



6月14日には、今年度1回目の『育友会読み聞かせ』がありました。全教室で、読み聞かせをしていただきました。読み聞かせボランティアの方からは、対象の子どもたちを想定して、養正公民館やまなびパークで本を選んだという話も聞きました。子どもたちの興味・関心を高めたいという願いをもって取り組んでいただけたことをありがたく思います。そのおかげで、子どもたちは、本の世界を楽しむことができました。デジタルでは実感できないぬくもりが伝わってきました。どうもありがとうございました。次回もよろしく願います。



わたしの主張 2023 多治見市大会

6月17日(土)にバロー文化ホールにて、わたしの主張 2023 多治見市大会が開催されました。養正小学校の代表として、6年生の加藤晴さんが出場しました。前日には、学年の仲間の前で発表しました。加藤さんは、「とても緊張しました。でも、学年のみんなが応援してくれてうれしかったです。」と語ってくれました。大勢の人を前にして、堂々と主張を発表する姿を頼もしく思いました。